

会議名	平成26年度 第1回西尾市子ども読書推進委員会
日時	平成26年10月15日(水) 午後3時～4時30分
場所	西尾市立図書館会議室
出席者	尾崎委員長、小松教育部長、中村図書館長、丹羽学校教育課長、長谷生涯学習課長、青山子育て支援課長、加賀子ども課主幹、尾崎健康課主幹、浅井市教研図書館部会副部長、杉浦図書館ボランティア、今井補佐、高須主任主査、生田主査
<p>委員会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 尾崎委員長あいさつ 2 自己紹介 委員全員の自己紹介 事務局職員の自己紹介 3 議題 (1) 西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況について 事務局より説明の後、各担当課ごとに進捗状況を説明。 <p>基本方針1</p> <p>図書館 (報告)</p> <p>未実施または減少しているもの等について報告します。</p> <p>1については、健康課の協力をいただき、対象者の99%以上に実施している。今後の課題は、未受診者についての対応を、図書館としても考えていきたい。</p> <p>2については、図書コーナーの設置場所を考えていきたい。現在は未実施。</p> <p>3については、子育てサークルの把握、情報の提供方法を考えていく。現在は未実施。</p> <p>4については、今年度、健康課にアドバイスをもらい1歳6か月と3歳時健診時に配布していただくチラシを作成。4月から配布していただいている。</p> <p>8については、室場ふれあいセンターでのおはなし会が今年からなくなったため、回数が減少している。要望を年度初めに聞いて対応している。今後は職員の体制の充実を考えていきたい。</p> <p>11については、そういった内容のおはなし会をしているボランティアを把握すること、学校見学で図書館を訪れた児童に民話の紙芝居を読み聞かせしているので、回数的には例年通りになると思う。</p> <p>健康課(意見)</p> <p>1のブックスタートについては、子どもが絵本を楽しむ姿を母親はこの時に初めて目にする。本との出会いの場となっているので、ぜひ続けてやっていって頂きたい。また、昨年度までは、7冊の中から選ぶという形だったものから、(原則は)決まった1冊をプレゼントという形になったため、時間的にもスムーズに流れるようになり、大変良くなったと思う。</p> <p>健診自体、100%受診を目指したいが98～99%で、あとの1%は医療機関で受診する等であり100%は難しい。</p> <p>8の室場ふれあいセンターはどのような形で行っていたのか？</p>	

→ふれあいセンターの企画としておはなし会を講座として実施し、ボランティアと図書館職員が出向いていた。

子育てサークルについては、年度初めに保健師に来てほしいという要望が出る。家庭児童支援課が管轄なので、聞いてみるとよい。

ボランティア(意見)

ブックスタートについて、ブックスタートの袋があるとPRにもなるので良いと思う。幡豆町などは袋があった。

生涯学習課(報告)

7については、15館あるうちの3館が実施。今後広げていきたい。

8については、室場ふれあいセンターがなくなったというのはどういうことか？

→室場ふれあいセンターで昨年度まで行っていた、おはなし会という講座がなくなったということ。

子育て支援課(報告)

14については、26の児童クラブに配本していただいている。ただ、中央児童クラブは自館の本があるためか、現在は配本がない。ぜひお願いしたい。

→これについては、つい先日依頼があり、今後対応していく。

基本方針2

学校教育課(報告)

19について、増えてきている。小学校は読み聞かせ集会、中学校はブックトークという形でやっている。

22について、割合は大変低い。整備されていない学校が多いということ。理由としては、言語種類が増えてきているため対応しきれない。一番多く整備されているのはポルトガル語の本ではある。

25については、15校で15人が配置。目標は18人。今後少しずつ増やしていきたい。

28については、少しずつ増えていくことを目標としているが、学校司書が配置している学校は司書教諭も連携して動きやすい。今後は、学校司書が配置されていない学校(担当の学校司書はいる)も、司書教諭と連携をとってやっていきたい。

32については、学校司書も含めて年に3回行っている。

36については、7月末には92%となっている。

39については、30校(小学校22校、中学校8校)が利用していて、今後も利用の予定のある学校もあるため、数字は増えると思う。

子ども課(報告)

18については、担当者会議の議題に上げたい。

23については、単独ではないが、指導計画の中には含まれている。重点を置くという点では単独の指導計画が作れるとよい。

24については、常に行っている。

31について、園ごとに担当者はいる。

43について、図書館が近いか遠いかという地理的な問題が影響しており、1回ずつ訪問している園が3園、一色保育園や荻原保育園は図書館に近いので、10回以上訪問し、合計27回となっている。

図書館(報告)

40については、本館は今年度から、各園に要望を聞いて出向いてくようになった。今後は職員の体制の充実が課題となる。

41については、どのような講座を希望しているかというニーズを把握していきたい。

42と43については、図書館からのPRと交通手段の確保が課題だが、交通手段の確保は難しい問題である。

教育庶務課(報告・代弁)

37と38については予算が確保できればやっていきたいが、高額であることと、今は防災・減災対策が優先されるため、それが終わってからということ、来年度はまだ難しいと思われる。

委員長

24の園での読み聞かせは、毎日決まった時間にやっているのか？

→ 担任がクラスごとに1日に数回実施している。1クラスだいたい20人位である。

22の日本語が母国語でない子どもへの対応はやはり難しいことか？

→ 東南アジアの子どもが多くなってきていて、言語が増えてきているため難しい。

ボランティア(意見)

最近学校ボランティアが一時期より減ってきている。お母さんたちは仕事を始めてしまったりで忙しくなっているようだ。退職されたようなシニアの方にボランティアをやってもらえるよう、図書館でシニア向けの養成講座をやってもらえるとうい。

委員長

図書館でそういったことはやっているか？

→ 図書館でボランティア養成講座はやっている。

ボランティア

若い人はそれに参加するが、シニアの人に是非参加してもらえるようなものをしていただきたい。

委員長

それは、どこが募集するのか？PTAになるのか？

ボランティア(意見)

学校はPTA総会や回覧板で募集するが、それでは集まらない。元気なお年寄りに子どもたちのために活動してもらい、それが生きがいになってくれるとうい。気楽に参加できる、本の楽しさなどを伝えられるシニアの講座があるとよい。

平坂中教諭(報告)

平坂中では、地域のお年寄りが図書館の整備を手伝ってくださり、その方がお友達の木工の出来る人に声をかけて、手作りの本棚ができあがりとても助かっている。

委員長(意見)

孫が近くにいないお年寄りが参加できる環境を、PTAや町内会を通じて作れるとうい。学校でもそういった取り組みをしていただき、図書館でも講座を企画していただけるとよい。

基本方針3

図書館(報告)

45については毎年開催しているが、ボランティアがどういう講座を望んでいるかというニーズの把握をしていきたい。

47については0回となっているが、11月によみきかせボランティアの発表会を支援することが決まった。

48については、館内報を合併時に種類に統一した経緯がある。それに「23日は読書の日」と掲載しPRしている。そこで紹介した本を読んだ人にはプレゼントをとという活動もしている。全園児、全児童にはひとり1枚、中学校へはクラスに1枚配布している。

49については、平成27年度に教科書が改訂されるので、内容を再確認する必要があると思っている。

56については未実施である。募集するのに、「シニア」と銘打つのもどうかと思いい実施に至っていない。

学校教育課(報告)

49については、3年生から6年生までの4年間利用しており、図書館に行ったことのない子も行ってみたいと思える内容のものだと思う。

委員長(意見)

56については、「シニアの方も大歓迎」という表記を入れて参加しやすい雰囲気にしたらどうか。

基本方針4

図書館(報告)

68のリーフレットは今日配布しました資料でございます。前回のこの会で案として出させていただいたものを完成させ、今年度当初に作成配布しました。

69については、今日のこの会議で25年度の数字が確定されたと認識し、この表で公表したいと考えていますが、各委員のご意見をお聞きしたい。

70は図書館のホームページで公開中である。

71については、23年度にこの2次の計画を策定する前にアンケートをとっている。25年度、26年度は未実施であるが、前例だと3次を策定する際になるが、実施等については検討させて頂きたい。

学校教育課(報告)

77については、図書館システムは全校に入っているので、あとはどう使うかである。

委員長 (意見)

69について、進捗状況を公表するというのは、この内容を公表するということによいか？

→ この資料の23年度と25年度の数字について公表していきたい。

健康課 (意見)

公表する前には数字を確認したほうが良い。

→ はい、各課に確認していただくようにします。

教育部長(意見)

公表するにあたり、表現を精査すること。各委員に配布して確認してから公表をすること。

委員長

全体でも良いので、何かあればご意見を頂きたい。

ふみくらだよりは毎月出しているのか？

→ はい、毎月出していて、小学生と園児には一人ずつに、中学校はクラスに1枚配布している。

委員長(意見)

校長先生でも23日は読書の日ということを知らない人がいた。大人の人も含め、家庭で本を読む日というPR活動をすすめてほしい。中学校ではいかがでしょうか？

平中教諭

朝のドリルの時間に読書をしている。ふみくらだよりは、クラスに掲示している。図書室にも掲示している。

委員長(意見)

ふみくらだよりを先生の分も配布したらどうか。

→ 余分には配布しているので、それを図書室に掲示してもらっている。

委員長

上山滋比古氏が以前いらっしゃった時にお話されたことで、0歳児教育の必要性を強調して、生後40か月までに言葉や音感などを教育すれば数年後に素晴らしい能力を発揮する、という持論をお話された。子どもの才能は大人が与えるだけでなく、持って生まれた才能を伸ばすことが大切である、ということも言われた。また、小学校に上がるまでに読み聞かせをする大切さも言われた。

違う人の話で、3歳までに1万回の読み聞かせをするとよい。1日に10回くらいやるとその数になる。おなかにいる時からやることもよい。また、小学校高学年にも読み聞かせをすると良いとも言っている。

その他

事務局

次回に26年度の状況・数字を取りまとめていきたいと考えている。

ボランティア

来週のにしお本まつりに是非お越しください。

委員長により子ども読書推進委員会を閉会した。